

# any

ars nova yamaguchi

「エニー」

summer 2016  
Jul.-Sep.

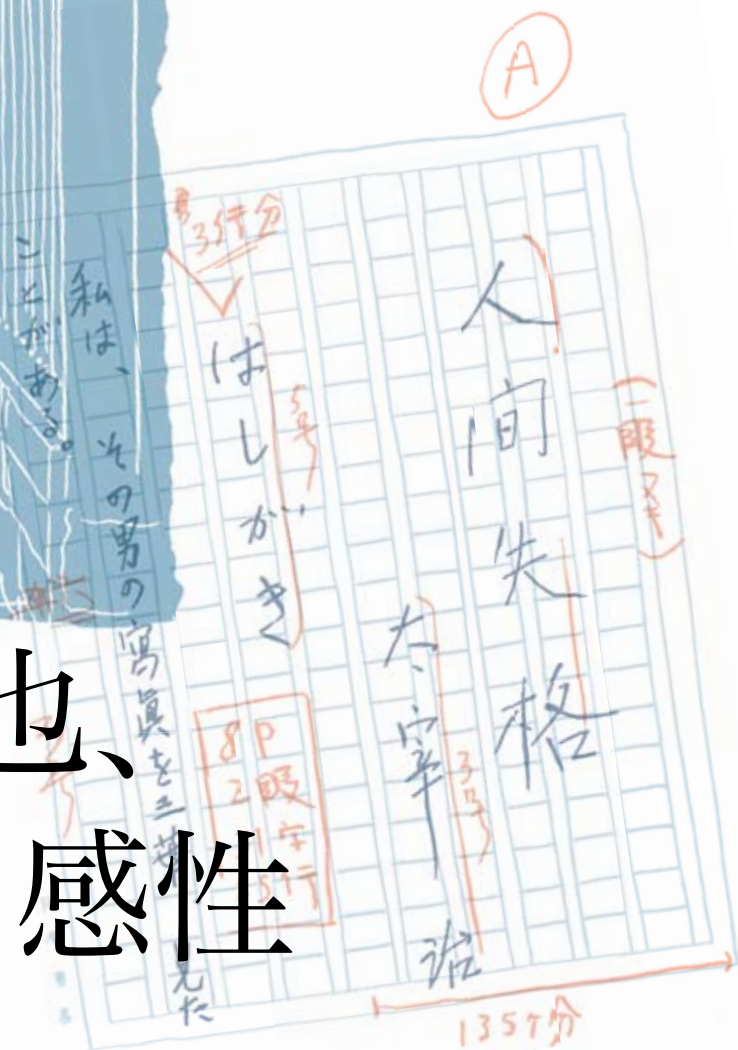
# 97

特集 特別企画展

「太宰治と中原中也」



## 太宰治と中也、 その響き合う感性



特集

03 太宰治と中也、  
その響き合う感性

特別企画展  
「太宰治と中原中也」

ピックアップイベント

08 映画の夏、来たる!!

山口情報芸術センター

Unlimited tone New Album「& Life」  
発売記念ライブ in YAMAGUCHI  
—無限の可能性を秘めたアンリミの歌声—

おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」  
—不思議な楽しいおはなし『わかったさんのクッキー』がお芝居に—

中原中也記念館

中原中也の会共催  
公開講演「太宰治と中原中也」  
—文学の碩学が語る太宰と中也—

山口市民会館

スペイン国立管弦楽団 山口公演  
—スペインより情熱の音楽届く—

12 any 通信

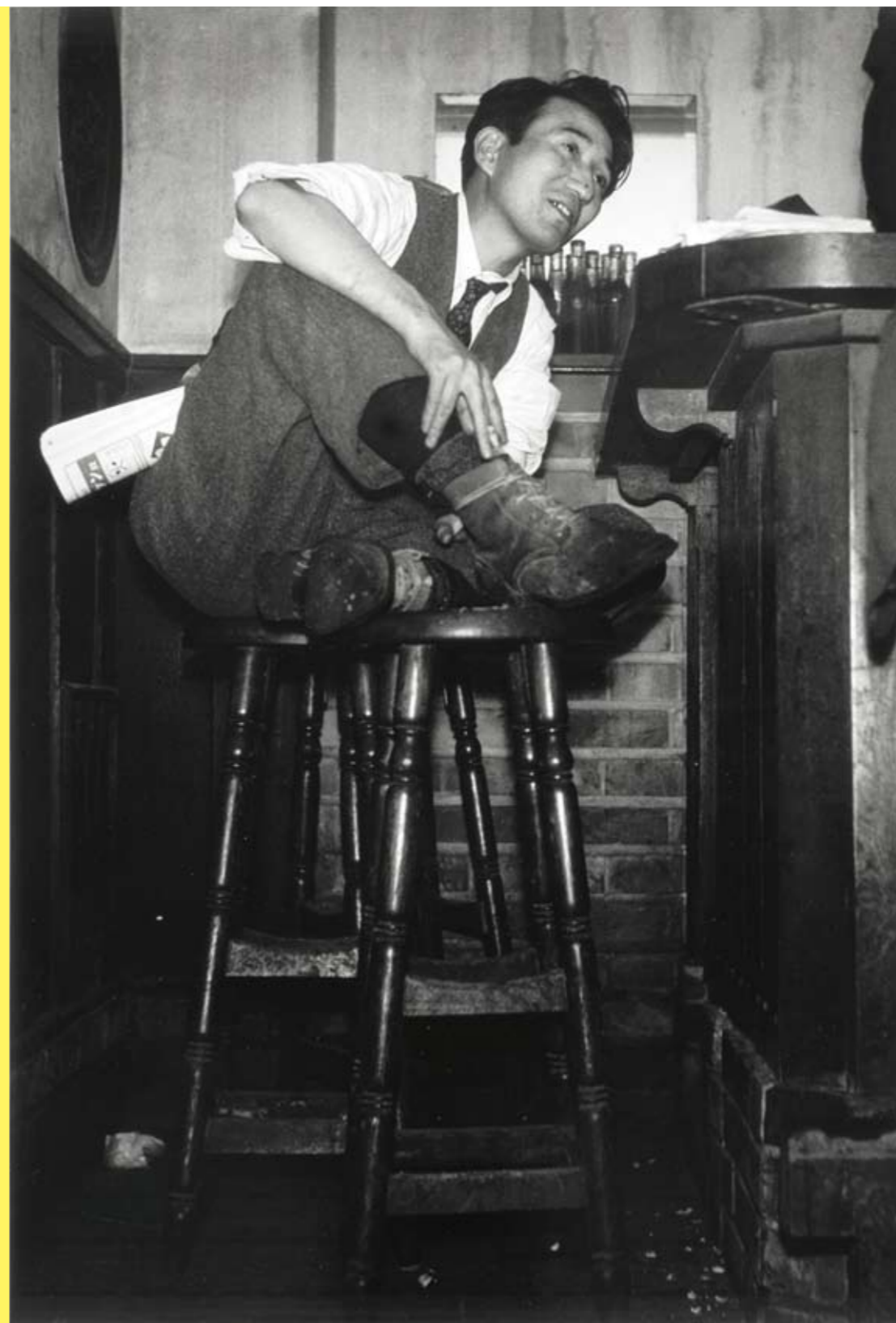
- ◎アーティストボイス 田村キョウコ (ミュージシャン/サンタラ)
- ◎お先に試写しました 「ディストラクション・ベイビーズ」(真利子哲也監督)
- ◎いらっしやいませ CHEERS!
- ◎GOOD GOODS 中原中也記念館オリジナル キャンバストートバッグ
- ◎My Favorite 山田寛之 (山口情報芸術センター 職員)

14 イベントカレンダー 7~9月  
INFORMATION

# その響き合う感性

中原中也記念館で今夏から始まる特別企画展のテーマは「太宰治と中原中也」。小説家・太宰治と詩人・中原中也は同じ時代の空気を吸い、同じ時期に文学を志した文学仲間でした。そんな2人が作家としてどのような接点を持ち、また作品の中でお互いの感性をどう響き合わせているのか、展示の担当をされる中原中也記念館の原明子さんにじっくりと読み解いていただきました。

## 特集 特別企画展「太宰治と中原中也」



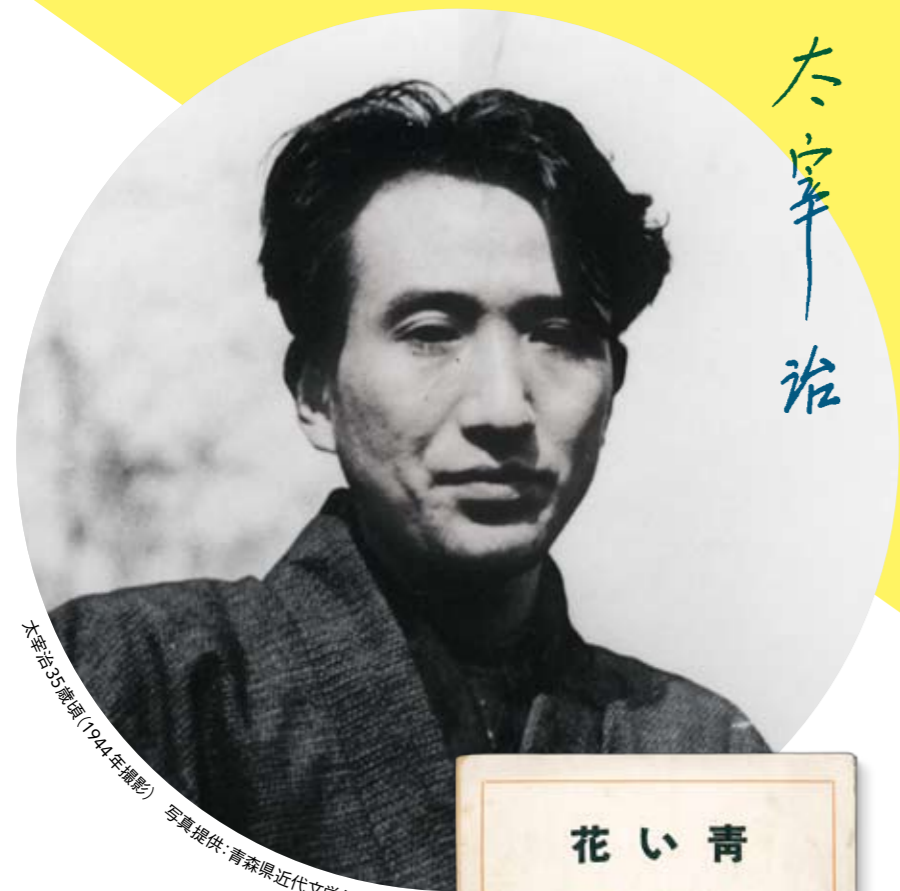
太宰治 37歳頃 (1946年撮影、銀座のバー・ルパンにて)  
photo: 林忠彦 写真提供: 周南市美術博物館

### 太宰治 DAZAI Osamu

1909年青森県生まれ。本名、津島修治。1935年に「逆行」で第1回芥川賞の次席となり、翌年に最初の創作集『晩年』を刊行。以後、「走れメロス」「津軽」「お伽草紙」など多くの作品を生み出した。戦後、「斜陽」で流行作家となるが、1948年、「人間失格」を発表した後、玉川上水にて入水。

# 太宰治と中也、

太宰治35歳頃(1944年撮影) 写真提供:青森県近代文学館



太宰治



雑誌「青い花」創刊号(1934年12月発行)。太宰治が中心となって創刊した雑誌。中野も同人となり、詩「港市の秋」「凄じき黄昏」を発表している。太宰は小説「ロマネスク」を発表。同人の檀一雄によると、表紙に赤い枠線を細く引くことを発案したのは太宰だったという。

小説の中に書かれている姿と、実生活との間にはだいぶギャップがあります。

今回特別企画展でとりあげる「太宰治」について、改めてどんな人物なのか教えてください。

太宰が生まれたのは青森県で、いまの五所川原市金木町というところ。中野より年が2歳下で、父親の代に新興地主となり、かなり裕福な家庭に生まれた11人兄弟の10番目の子どもです。六男なの

で後継ぎの立場で生まれたわけではなく、そのことを太宰本人は敏感に感じ取っていて、小説の中でも、自分は「オズカス」(叔父糺。津軽地方で三男坊や四男坊のことを卑下するという)だと言っていました。母親が病弱だということ、父親が貴族院議員で東京にすることが多かったことから、両親に直接育てられておらず、叔母とか子守に育てられたそうです。太宰治といえば、先輩格の作家たちに「芥川賞をください」と手紙を送ったり、川端康成の選評に反論した文章を雑誌に投

稿するなど、派手な印象もあると思います。ただ太宰はそのようなセンセーションを起こすことによって、新人だった自分を当時の文壇に売り込んでいこうとしていたのかもしれませんが。そんなふうポーズをとる作家だったようです。太宰は作品のなかで、ちょっとおどけてみたり、自分のことを自虐的に語ったり…読者をおもしろがらせよう、文章でおもてなしをしようというサービス精神が旺盛。一見自分の私生活を赤裸々に書いているように見える小説でも、そこはかなり創作の手が加えられています。小説の中に書かれている姿と、実生活との間にはだいぶギャップがあり、展示ではその点を混同しないように注意して紹介しています。

自殺未遂を何度も繰り返していたという事実もありますよね。

確かに太宰は精神的にとっても不安定だったところがあります。それが逆に書く原動力になっていました。不安定ななかでも文学者として作品をいくつも書き続けたということが、今回の展示では重要なポイントだと考えています。戦時中の言論統制が厳しい時代でも、時局におもねることなく、おもしろい小説をたくさん発表し続けました。多くの困難のなかでどんなふう作品を生み出していったのか、太宰の「作家魂」に触れていただきたいと思っています。

太宰と中野、2人にはどんな接点があったのでしょうか？

太宰は同人誌「青い花」の発行を企画するのですが、中野もその同人の一人として名前を連ねます。これがきっかけとなって2人は出会ったようです。ただ、「青い



花」の刊行時には、中野は長男の文也が生まれたため山口に帰ってしまい、次に中野が東京に戻ったときには、太宰のほうが盲腸炎になって入院してしまいます。中野と太宰、どちらの作品も好きだという読者は割と多く、だから2人の接点ももっとあったのだろうと思われがちですが、意外とニアミスが多く、2人の関係についてはよく分かっていないところもあります。

また、残念ながら中野が太宰について語っているものは何も残っていません。太宰も中野についてほとんど語っていないのですが、中野と同時代の詩人である津村信夫に向けた追悼文の「郷愁」という文章に一カ所だけ登場します。太宰は、その文章の最後に「私は中原中野も立原道造も格別好きでなかったが、津村だけは好きであつた」とあえて名指しで記しています。またほかにも、酔っぱらった中野が太宰にすごくからんだというエピソードもあり、あまりいい印象ではなかったようです。

ただ、周りの人たちの証言を拾っていくと、太宰は中野を先輩として尊敬していた、という記述が出てきたり、太宰が中野の住むアパートまで直接訪ねて行ったこともあるようです。「青い花」の同人だった檀一雄の「小説 太宰治」には、太宰が中野の死後、「死んで見ると、やっぱり中原だ、ねえ。段違いだ」と言ったという記述が出てきます。これは小説なので真偽の程は分かりませんが、やはり中野のことを評価して意識していたのではないのでしょうか。お互い気になる存在だったのに、うまく接近できない、2人はそんな関係だったようです。

2人が似ている部分はあるのでしょうか？

これは個人的な意見にはなりますが、太宰と中野の作品には、あえて自分の恥ずかしい部分や弱い部分をさらけ出しているような作品が多いです。上から威圧的に物を言わず、人間の弱さにそっと寄り添ってくれる。また、2人も世間に対して距離を置くというスタンスがあって、その心情が

中原中野



中原中野29歳頃(1936年撮影)

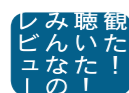
お互い気になる存在だったのに、うまく接近できない、2人はそんな関係だったようです。

読者に訴えかけてくるのかもしれませんが。それから、太宰の小説には、数行ごとに次々に内容が変わっていく「葉」という作品があったり、短い単語を重ねて文体に独特のリズムを持たせた作品があったりして、詩を読んでいるような気持ちになります。そのようなところからも、詩人である中野に近い感性を持っていたと思います。

2人の作品を比べることによって、それぞれの作品の新しい読み方を提示したい。

今回の展示はどのような構成になっていますか？

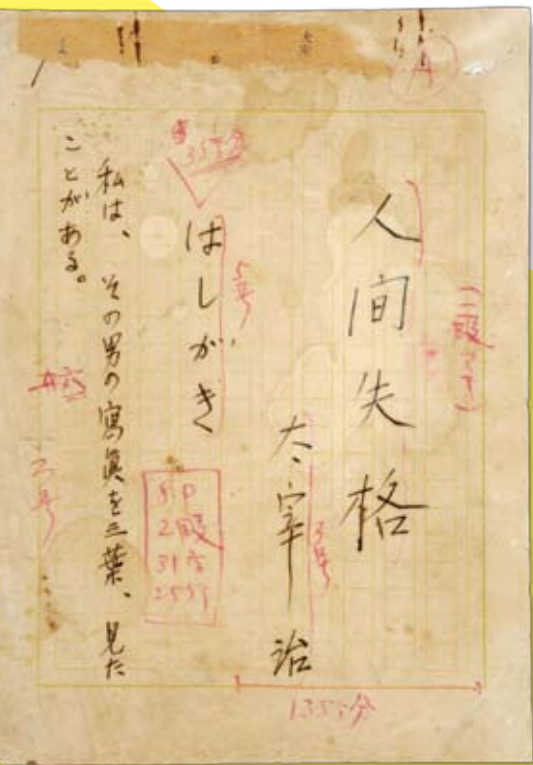
今回は主に2人の作品を比較して読んでいただくことで、みなさんに色々知っていただくと思っています。中野と太宰は感性は似ていても、その表現の仕方には大きな違いがあります。2人の作品を比べることによって、それぞれの作品の新しい読み方を提示したい。中野作品への見る目が変わったり、太宰の新しい一面を感じ取っていただきたいですね。



●中原中野のダダ観について、少し理解を深めることができました。怪人のダダも良かったです。(20代女性 [DADA 1916-1923 ツアラそして中野]より)  
●11びきのねごとどろんごでよごれるところがおもしろかった。(10代未満女性 人形劇団クラテル「11びきのねごとどろんご」より)  
●中野がシェイクスピアの本を読んでいたことに驚いた。(10代女性 「中野の本棚—外国文学篇」より)より  
●お求めやすい料金で盛りだくさんの内容に大満足です。楽しいひと時をありがとうございました！(女性 「宝くじおしゃべり音楽館」より)



【青い花】 太宰治が中心となって創刊した雑誌。檀一雄、木山捷平、中原中野、津村信夫らが同人に名を連ねた。1934(昭和9)年12月に創刊するも、創刊号のみで終わってしまう。



原稿「人間失格」[日本近代文学館蔵]。周囲に比べ、自分一人だけが違っているのではないかと不安と孤独に苛まれる主人公の手記の形式で描かれた小説。太宰文学の総決算的な作品ともいわれる。



1.



2.



3.



4.

1. 「人間失格」(1948年、筑摩書房刊)。「グッド・バイ」を併録。
2. 「女生徒」(1939年、砂子屋書房刊)。「女生徒」ほか7篇の短編小説を収録。表題作「女生徒」は、有明淑という女学生の日記を題材に、14歳の女生徒の1日を、主人公の独白体とおして描いた小説。
3. 原稿「グッド・バイ」[日本近代文学館蔵]。太宰の最後の小説。未完のまま没後遺稿として発表された。
4. 太宰治画「自画像」(1947年頃)[三鷹市寄託]

2人とも長生きしていたら、  
共通する感性を持つもの同士、  
もっと親密な関係になっていた  
かもしれません。



太宰治31歳頃。三鷹の自宅、縁側にて(1940年撮影)[個人蔵]

展示で作品をどのように比較しているのでしょうか？

今回の展示には監修に詩人・文芸評論家の北川透先生に入っただき、比較するテーマを5項目ほどお示いただきました。まず1つ目は、作品の親しみやすさである「通俗性・大衆性」です。格式ばったというよりも、俗っぽい面が2人の作品に共通してあるように思います。読者に訴えかけるような「大衆性」があり、その面を2人が作品のなかでどのように打ち出しているのか、そこが見えるような展示を考えています。

2つ目は「童話・童謡性」です。中也の作品には「春と赤ん坊」「この小児」「一つのメルヘン」など、子どもの視線から書いたちょっと不思議なメルヘンチックな詩があり、また太宰の作品には童話的な物語や、津軽の方言がたくさん登場する民話的な作品があります。ですが、2人が童話的なものを書いたとき、その表現の仕方は全然違っています。

3つ目は「前衛芸術との接点」。中也は、

ヨーロッパから届いた前衛芸術「ダダイズム」に影響を受けて詩作を始めますが、太宰の初期の作品にも前衛的なものが多くあります。新しい思想や表現にコミットしていく点ではやはり2人は同じようなものを見つめていたし、そこが2人の作品創作の出発点でもありました。同時代の2人だったからこそ同じように新しい風を敏感に感じ取り、そこから新しい文学を生み出していこうとする、その感覚は近いものがあつたといえます。

2人が目指したもの、  
表現しようとしていたものは  
何なのか、を突き詰めていく  
展示になっています。

ほかにはどんなテーマで比較していますか？

4つ目は「狂気と道化」です。ここでも2人に共通する部分があります。中也と太宰の作品には、わざとおどけて世間や世界をひっくり返すような表現をして、常識と

は別の視点をつかみとろうとする姿勢があります。そこが2人の、世間から距離を置くスタンスへつながっていきます。5つ目として「待つ」というテーマにも注目します。太宰の小説に「待つ」という作品があります。女性の一人語りの短い小説で、主人公が一人駅でずっと何かを待っているのですが、自分がいったい何を待っているのか、誰を待っているのか分からない。その背景には戦争が深く絡んでいて、主人公は「待つ」ことによって、世間が強いる戦争の熱狂から距離を取るように読めます。この「言葉で言い表せない何か」を待ち続ける姿勢は、中也の「言葉なき歌」という詩にも表されています。時代は少しずつ変わりますが、2人は同じようなものを見つめていたのではないかと。そしてそこには、簡単に世間と同調しない、けれど威圧的にならずにはじらいを含みながら物言う、そんな2人の姿勢が関わっているのではないかと考えています。作品を比較して読むことで、2人の文学に対して「なぜだろう」「どうしてだろう」と

いう問いが見つかり、その答えを考えていくことで、太宰と中也が求めていたものはいったい何なのか、2人が目指したもの、表現しようとしていたものは何なのか、を突き詰めていく展示になっています。

具体的にどのような資料を見ることができ  
るのでしょうか？

中也の直筆資料はもちろん、やはり小説家としての太宰をみなさんに知っていただくこと、太宰の資料もたくさん用意しています。原稿をはじめ、彼の愛用品や着物、掛け軸などもご紹介します。授業中にノートに描いていたかなり個性的な落書きも紹介しますよ(笑)。太宰の意外な一面も知っていただければと思います。また、太宰文学の特徴の一つでもある女性の語りで書かれた「女生徒」という作品や、最後の作品といわれる小説「グッド・バイ」も展示します。「人間失格」や「走れメロス」という有名作品だけではなく、太宰の多彩な作家性を展示でぜひ見ていただきたいです。

今回の展示で新たに発見したこと、気づいた点があれば教えてください。

昨年特別企画展で取り上げた萩原朔太郎は、中也よりも21歳年上で年が離れていたのが先輩詩人と後輩詩人という関係でしたが、太宰と中也は2歳しか違わないので、詩と小説ということでジャンルは違いますが、やはり同じ時代の空気を吸った文学者だと感じます。作品を発表する雑誌も重なっていてとても近い存在でした。近すぎるがゆえに反発してしまっていた。ですが2人とも長生きをして年を重ねていけば、きっと共通する感性を持つもの同士、もっと親密な関係になっていた…、そう思えてなりません。



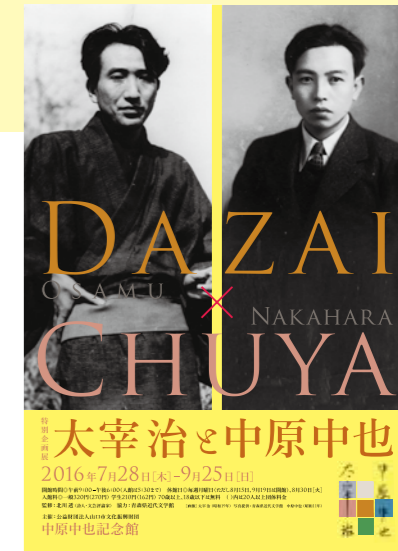
## 特別企画展 「太宰治と中原中也」

2016年7月28日(木)～9月25日(日)

9:00～18:00(入館は17:30まで)

会場:中原中也記念館

【入館料】( )内は20人以上の団体料金  
一般 320円(270円) 大学生 210円(162円)  
70歳以上・18歳以下無料



## PRESENT

特別企画展「太宰治と中原中也」のパンフレットおよび書籍をプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、7月31日(日)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

- A 特別企画展「太宰治と中原中也」パンフレット (3名)
- B 太宰治著『斜陽・人間失格・桜桃・走れメロス 外七篇』[文春文庫] (1名)  
太宰治の人気の高い作品を集め編集された文庫本。太宰治作品の入門書として最適な一冊。

【あて先】〒753-0075 山口市中国町7-7 (公財)山口市文化振興財団  
「any vol.97 特集プレゼント」係  
FAX:083-901-2216 e-mail:any@ycfcp.or.jp  
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

## 真夏の夜の星空上映会

2016年8月12日(金)～14日(日)  
各日19:30頃～  
[会場] 中央公園 [料金] 無料

- 上** 8月12日(金)  
「スタンド・バイ・ミー」  
(1986年/アメリカ/89分)
- 映** 8月13日(土)  
「映画 ひつじのショーン  
～バック・トゥ・ザ・ホーム～」  
(2015年/イギリス・フランス/86分)
- 作** 8月14日(日)  
「シェフ ミツ星フードトラック  
始めました」  
(2014年/アメリカ/115分)
- 品**

涼しい  
星空の下、  
みんなでわいわい  
映画を楽しむ。

# 映画の夏、 来たたる!!

今年の夏も大音量で、大スクリーンで、映画を観よう!

大迫力、  
臨場感満載  
の映画を体感。

## YCAM 爆音映画祭2016

2016年8月25日(木)～28日(日)  
[会場] 山口情報芸術センター  
スタジオA  
[料金] 全席自由

- 1** 一般 1,300円  
any会員・特別割引・  
25歳以下 800円
- 3** 一般 3,000円  
any会員・特別割引・  
25歳以下 2,100円

フリーパス券  
もあります!

**上映作品**  
「悪魔のいけにえ 公開40周年記念版」  
「地球に落ちて来た男」ほか  
※時間や上映作品等詳細については  
お問い合わせください。

P I C K U P E V E N T I S U M M E R 2 0 1 6  
ピックアップイベント

山口情報芸術センター(YCAM)

http://www.ycam.jp/

## Unlimited tone New Album 「& Life」 発売記念ライブ in YAMAGUCHI

2016年7月30日(土) 19:00開演 (18:00開場)  
会場:スタジオA

### 無限の可能性を秘めた アンリミの歌声

「魅力的な声の重なり」をコンセプトに結成されたボーカルチーム「Unlimited tone(通称:アンリミ)」。メンバーは現在、Dody(ドディ)、Luz(ルース)、Ryohei(リョウヘイ)による3人で、それぞれがソロアーティストとしても活躍、作詞作曲・アレンジも自分たちで担当しています。現在放送中のTVアニメ「田中くんはいつもけだるげ」のオープニング主題歌「うたたねサンシャイン」を手掛け、今春シングルリリース、また6月からはアルバム「& Life」を引っ提げてのツアーライブを行うなど、勢いにのるアンリミが、山口で特別ワンマンライブを開催します。



そのまっすぐなメッセージ性と、ハーモニーの力強さや豊かな表現力は圧巻。各自の声色が合わさったとき、彼らの音(Tone)は無限(Unlimited)の可能性を持つ!!

わたしはココに注目する!

ライブ演奏はピアノ・ギターを弾き語ってのアンブラグドスタイルを始め、絶妙なコーラスワークやアカペラなども展開し、圧巻の歌声で聴くものを魅了します。今回のワンマンライブでは、パーカニストをゲストに迎えた演奏と音楽で、また一味違ったアンリミの魅力を楽しむことができます。

チケット情報 発売中

料金 全席指定 前売 一般 S席 5,500円(完売)/A席 4,500円 ※小学生以上有料 ※any会員は各500円引

## おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」

2016年9月10日(土) 11:00開演 / 16:00開演  
11日(日) 11:00開演 / 15:00開演  
会場:スタジオA



photo:  
Hideto Maezawa

### 不思議な楽しいおはなし 『わかったさんのクッキー』がお芝居に

自由な発想と個性的なキャラクターで不思議な世界を描き出す寺村輝夫原作の児童書『わかったさん』シリーズの『わかったさんのクッキー』が、本の中から飛び出して、おいしいおかしいお芝居になりました。現代日本の若者を先鋭的に表現し、海外でも高く評価される演劇カンパニー「チェルフィッチュ」主宰の岡田利規が、こどものためのお芝居に初挑戦。舞台美術を手掛ける現代美術家の金氏徹平と、劇中歌を担当するシンガーソングライター・前野健太とともに、こどもたちの感性を刺激する作品を創り上げました。2015年夏に初演され、大きな反響を呼んだ本作は、今夏、

全国各地を巡り、たくさんのおともたちとおとなたちのもとへ届けられます。ユニークな世界観に満ちた『わかったさんのクッキー』をぜひ舞台でお楽しみください。

わたしはココに注目する!

**関連企画** ※7月中旬頃に詳細発表予定。  
永井郁子さんによる絵本作りワークショップ ほか  
2016年9月3日(土)  
岡田利規さんによる演劇ワークショップ  
2016年9月8日(木)  
おいしいたのしいクッキーづくりワークショップ  
2016年9月10日(土)

チケット情報 7月9日(土)～

料金 全席自由 前売 おとな 3,000円(any会員2,700円) こども(4歳～18歳) 1,000円  
おやこペア 3,500円(any会員3,200円) ※4歳以上有料(3歳以下入場不可)

[原作] 寺村輝夫(『わかったさんのクッキー』/あかね書房刊 絵:永井郁子) [台本・演出] 岡田利規  
[美術] 金氏徹平 [音楽] 前野健太 [出演] 椎橋綾那、古屋隆太、山崎ルキオ、笠木泉、佐々木幸子

- 特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
- 特別割引:シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。 ■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- いずれの公演も特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

mini PICK UP!



映画「バンコクナイツ」

sound tectonics #18  
「バンコクナイツ」  
ジャパンプレミア爆音上映  
+ライブ

2016年9月24日(土)  
[映画上映]13:30開演  
[ライブ]19:00開演  
会場:山口情報芸術センター  
スタジオA

YCAMでは、映画制作プロジェクトの第2弾として、インディペンデント映画集団・空族によってタイ、ラオスにて制作された映画「バンコクナイツ」のメイキング映像制作を行いました。その完成を記念し、映画「バンコクナイツ」の日本初演爆音上映と、タイから伝統音楽のミュージシャンを招いてライブを開催。この日、YCAMがアジアの熱気に包まれる!!

【「バンコクナイツ」関連展示】  
9月24日(土)～11月6日(日)

[チケット情報]8月6日(土)～

[料金]全席自由

【映画チケット】

一般 1,800円

any会員 1,300円ほか

【ライブチケット】

前売 一般 2,000円

any会員 1,500円ほか

※セット割引あり

mini PICK UP!



かぼちゃに甘酒を加えたジェラート

## YAMA KITCHEN オリジナルジェラート

YCAMのレストランスペースを使って、土日を中心に展開しているプロジェクト YAMA KITCHEN。今年度は、野菜を使ったオリジナルのジェラートを作って300円で販売しています。使う野菜は毎回変わり、甘酒を加えるなど砂糖はなるべく少なめに。素材の味がそのまま味わえて、皮や実のつぶつぶも入った新感覚のジェラートです。苦手な野菜もこれだと美味しく食べられる!?

## 中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

中原中也の会共催

### 公開講演「太宰治と中原中也」

2016年9月17日(土) 13:30~

会場:セントコア山口

### 文学の碩学が語る太宰と中也



昨年の中原中也の会大会の様子

中原中也記念館では、中原中也の会との共催により公開講演を行います。テーマは中原中也記念館の特別企画展タイトルと同じ「太宰治と中原中也」。講師には、筑波大学教授、群馬県立女子大学学長を経て、現在、両大学名誉教授である平岡敏夫を招きます。北村透谷、夏目漱石、石川啄木などの作家論や『夕暮れ』の文学史』『昭和文学史の残像』といった文学史論

など、詩歌散文の枠を越え数多くの著作がある碩学が、太宰治と中原中也という近代文学を代表する作家と詩人について語ります。

当日は、本講演のほか、中原中也の会会長で詩人の佐々木幹郎と当館名誉館長の福田百合子によるトークセッション「中原中也の会20年」も行われます。こちらもあわせてお楽しみください。

#### わたしはココに注目する!

近代文学研究では小説・評論の分野と詩歌の分野で専門が別れがちになり、作家と詩人の両方を幅広く語る研究者はそれほど多くありません。その数少ないお一人である平岡さんのお話をうかがえる貴重な機会です。

料金 ■ 500円(予定)

## 検定 中也



太宰治「人間失格」(初版本)

7月28日から中原中也記念館で開催する特別企画展「太宰治と中原中也」から問題です。中原中也と太宰治は2歳しか年が離れておらず、同時代の文学者として活動していました。特別親しくしていたわけではありませんが、2人は実際に3回ほど会ったことがあるといわれています。1934(昭和9)年、太宰はある雑誌を創刊し、中也もその同人となりました。さて、2人の出会いのきっかけとなった、その雑誌の名前は何か。

- 1 「赤い鳥」
- 2 「青い花」
- 3 「金の舟」

答えは14ページ

## 山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

### スペイン国立管弦楽団 山口公演

2016年7月31日(日) 17:00開演 (16:00開場)

会場:大ホール

### スペインより情熱の音楽届く



指揮:アントニオ・メンデス



ソリスト:パブロ・ヴィレガス

スペインが誇るオーケストラ「スペイン国立管弦楽団」が、26年ぶりに来日。この夏、その演奏を聴くことができます。

スペイン国立管弦楽団は、戦前のマドリッド市内のオーケストラを再編して1942年に設立された楽団。スタンダードな西洋音楽に留まらず、新曲や古き作品を復元しての初演や、バロックから現代までの幅広いレパートリーで、多くの聴衆を魅了しています。指揮するのは、2013年、ロリン・マゼールが創設した「キャスルトン・フェスティバル」での北米デビューが絶賛を博し、同年ロサンゼルス・フィルハーモニーにも指揮者デビューしたスペイン生まれのアントニオ・メンデス。ソリストには、世界30カ国以上の国々で演奏す



るなど、近年の活躍が目覚ましく、スペインの文化大使として批評家たちから褒め称えられているギタリスト、パブロ・ヴィレガスを迎えます。情熱の都マドリッドより届く名曲の数々をここ山口でご堪能ください。

#### わたしはココに注目する!

スペイン生まれの指揮者、ソリスト、そして楽団が揃う圧巻の本場のポレロは必聴!! お聞き逃さないように。

チケット情報 発売中

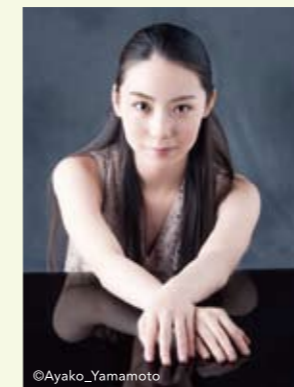
料金 全席指定 前売 一般 S席 7,000円/A席 6,000円/学生各半額  
\*any会員は一般料金より各1,000円引(1会員4枚まで)

### 旬な若手ピアニストを紹介するピアノリサイタル・シリーズ フレッシュピアニスト プレミアム・コンサート

会場:山口市民会館 大ホール

#### Part1: 松田華音

2016年11月26日(土) 18:30開演 (17:30開場)



©Ayako\_Yamamoto

第1弾は、香川県生まれの20歳、松田華音。8歳のときにオーケストラと初共演、以後、ミハイル・プレトニョフ、マルク・ゴレンシュタイン、高関健などの指揮者、ロシア・ナショナル管弦楽団、ロシア国立交響楽団、キエフ国立フィルハーモニー交響楽団などと共演。国際的に活躍し、着実に進化をとげてきた彼女の実力と、その瑞々しさあふれる演奏をお楽しみください。

#### Part2: 牛田智大

2016年12月23日(金・祝) 14:00開演 (13:00開場)



©Ayako\_Yamamoto

第2弾は、福島県生まれの若手16歳、牛田智大を迎えます。3歳よりピアノを始め、8歳の時から5年連続でショパン国際ピアノコンクール in ASIAで1位を受賞するなど、天才ピアニストの名をほしいままにしています。世界をまたにかけて活躍をはじめたその若き才能は、今後大きく開花し続けることでしょう。コンサートでその魅力を体感ください。

チケット情報 any会員先行予約 8月20日(土)~ / 一般発売 9月3日(土)~

料金 全席指定 一般 4,000円 any会員 3,500円(1会員4枚まで) \*2公演分まとめたチケット料金となります。

■いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。 ■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。  
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

先行チケット  
発売情報  
早チケ  
any会員  
先行予約  
7月9日

### STARDUST REVUE 35th Anniversary Tour「スタ☆レビ」

2016年11月6日(日)  
17:00開演

会場:山口市民会館 大ホール



30年以上もの長きにわたって日本の音楽シーンを牽引するスターダストレビュー。彼らが2014年の秋以来2年ぶりに山口にやってきます。パワフルなステージパフォーマンスと笑いあふれるトークは健在。今回もスタレビのライブを存分にお楽しみください。

[チケット発売]

any会員先行予約 7月9日(土)~

一般発売 8月7日(日)~

[料金] 全席指定

前売 一般 6,700円

any会員 6,400円

\*ジュニア割引(25歳以下)、シニア割引(65歳以上)、障がい者の介助者は1,000円キャッシュバック。当日証明できるものをご持参ください。

先行チケット  
発売情報  
早チケ  
any会員  
先行予約  
8月20日

## 中也を味わおう

### 溪流

たにかは  
溪流で冷やされたビールは、  
青春のやうに悲しかった。  
峰を仰いで僕は、  
泣き入るやうに飲んだ。

ビシヨビシヨに濡れて、とれさうになつてゐるレットルも、  
青春のやうに悲しかった。  
しかしみんなは、「実にいい」とばかり云つた。  
僕も実は、さう云つたのだが。

湿つた苔も泡立つ水も、  
日蔭も岩も悲しかった。  
やがてみんなは飲む手をやめた。  
ビールはまだ、溪流の中で冷やされてゐた。

水を透かして瓶の肌へをみると、  
僕はもう、此の上歩きたいなぞとは思はなかつた。  
独り失敬して、宿に行つて、  
女中と話をした。



屋外展示の様子

#### 解説コメント

中原中也記念館前庭には、毎年異なるテーマに沿った詩を紹介する「屋外展示」のコーナーがあります。今年のテーマは「溪流」。10月までの前期は「溪流」青木三造、その二「宿醉」を展示しています。今回はその中から、山口の地「溪流」をピックアップ。溪流で仲間たちとビールを楽しむ中で、「僕」は違和感を覚えていきます。「青春のやうに悲しかった」と表現されている溪流のビールは、言いしれぬ悲しみに沈む「僕」の分身のようです。その悲しみから離れて溪流をあとにした「僕」の心情が、最終連の場面展開によって巧みに描き出されています。前庭は中原中也記念館閉館後も夜10時まで開放されています。中也の酒の詩を読んでも、湯田温泉街の飲み屋さんへ繰り出すのもまた二興ではないでしょうか。

●書棚のデザインの入口や、本をタイトル案内にしたところなど展示の仕方がとても良かった。(40代女性「中也の本棚—外国文学篇」より)  
●音楽との一体感がすごい。VRは初体験だったので衝撃を受けた…。ダンスも素晴らしいです。(20代男性「border」より)  
●芥川龍之介などのエピソードが書かれていたのも非常に良かったです。(10代男性「中也の住んだ町—新宿」より)  
●音楽を久しぶりに聴き、映画を思い出しました。(60代女性「宝くじおしゃべり音楽館」より)

# any通信

涼しげな朝顔に  
夏の暑さが少し和らぐ。



## 太宰治と中世の作品世界を 様々な角度から読み解く

中原中也記念館では、この夏開催の特別企画展「太宰治と中原中也」の関連として、太宰治と中原中也の作品世界を読み解いていく企画をいくつか準備しました。展示担当者によるブロムナードトークはもちろん、会場も巻き込みながら、大学生と一緒に太宰の小説や中世の詩について語るトークイベントや、童話をパロディ化した太宰治の「お伽草紙」を演劇作品にして上演するなど多彩に行います。

### トークイベント 大学生と語る、太宰治と中原中也 —「待つ」ということ

2016年8月27日(土) 14:00~16:00  
会場:山口情報芸術センター 多目的室  
[料金]無料(申込不要)  
[司会]村上林造(山口大学教育学部教授)

### 演劇公演 お伽草紙「カチカチ山」

2016年9月22日(木・祝)  
19:00開演  
会場:中原中也記念館 読書コーナー  
[原作]太宰治  
[脚本・演出]オカザキケント  
[料金]無料(要申込)  
[定員]30名  
※申込方法等詳細はお問い合わせください。  
※ブロムナードトークは7/30、8/11、9/24に開催。

### 1年間を通じて オリジナルワークショップを紹介

YCAMでは、人と「社会」「身体」「メディア・テクノロジー」とのかかわり方をテーマにオリジナルワークショップを多数開発してきました。GOOD DESIGN賞を受賞するなど高い評価を受けるこれらのワークショップを、もっと多くの方に体験してもらおうと、今年度は2カ月毎

に内容を替えて紹介しています。5月と6月には、「音」と「空間」について学ぶワークショップ「walking around surround(ウォーキング・アラウンド・サラウンド)」を開催。小学生から大人までたくさんの方が参加されました。今後は「パスタ建築ワークショップ」や「感覚アスレチックワークショップ」などを実施していきます。ぜひお気軽にご参加ください。



ワークショップ「walking around surround」開催の様子

## ARTIST VOICE

アーティスト  
ボイス

### 田村キョウコ (ミュージシャン/サンタラ)

山口県出身であり、音楽ユニット「サンタラ」として活躍する田村キョウコさんは、これまでも度々山口を訪れライブを行っています。昨年は、中原中也生誕祭「空の下の朗読会」にゲストミュージシャンとして出演されました。中也の詩と対面したとき、田村さんが思うことは？

### 中也の瓶詰の手紙を拾ったような気がした。



「なぜ今、中也なの？」あちこちで訊かれて答えに困っています。ただの偶然のようにも思えるし、いつかこうなる気もしていたし。詩人は誰かに頼まれて詩を書くわけでない。中也だってそうだし、私もそう。「表現する者」は誰だってそう。まだ見ぬ人に向けて表現する。誰が受け取ってくれるのか、わかっ

てもらえるのか、そうでないのか、もしかしたら誰にも届かないかもしれないよ。でも表現せずにいられない。それは瓶に宛てのない手紙を詰めて海へと放るのに似ている、と思う。なんと頼りない、なんと切ない話だ。「表現する者」はいつだってまだ見ぬ人に焦がれている。昨年たまたま読んだ中也の詩。中也の瓶詰の手紙を拾ったような気がした。瓶の中でまだ中也は生きていて肩を並べ月を見上げた。私は思わずギターを持って歌ってしまった。こうして私が受け取った瓶をもう一度海へ放るようなアルバムができあがったというわけ。誰かが拾ってくれますように。

### 中原中也生誕祭「空の下の朗読会」

2015年4月29日  
会場:中原中也記念館 前庭



毎年、中也の誕生日である4月29日に、中原中也記念館の前庭をステージに行われる中也生誕祭「空の下の朗読会」。前半は、市内のみならず県外からも集まった多数の参加者が自由に選んだ詩を朗読。後半はゲストミュージシャンによるライブコンサートが開催される。2015年のゲストミュージシャンには、サンタラが登場。初夏の爽やかな空の下、中也の言葉にのせて2人が紡ぎ出す歌と音楽が会場を心地よく包み込み、聴衆を大いに魅了した。

### 田村キョウコ TAMURA Kyoko

山口県岩国市出身。アコースティックユニット「サンタラ」のヴォーカリスト、ソングライターとして2004年にメジャーデビュー。2016年7月20日、中原中也の詩にメロディをつけたオリジナル曲3曲を含むアルバム「Moon in a Bottle」をリリース。現在全国ツアー中。詳しくはwww.santara.jpへ。

## お先に 試写し ました



©2016「ディストラクション・ベイビーズ」製作委員会

### 「ディストラクション・ベイビーズ」

(2016年/日本/108分/カラー/R15+)  
[監督]真利子哲也 [出演]柳楽優弥、菅田将暉、小松菜奈、村上虹郎、池松壮亮、三浦誠己、でんでん

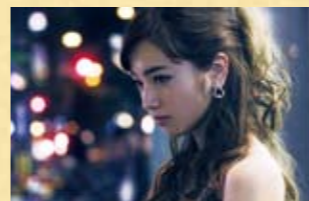
舞台は愛媛県松山市。街中の人に喧嘩を仕掛け続ける泰良(たいら)を、柳楽優弥が演じています。冒頭、「獲物」を見つけようと街をさまよう泰良の獣のような表情に、見ている私たちも画面に釘付けになります。生々しい喧嘩が劇中再三繰り返されますので、その手の描写が苦手な方へはお勧めはできません。それでも一瞬たりとも目を離すことができない泰良の圧倒的な迫力は、勇気を出して一度味わう価値があります。彼が何を考え、なぜ喧嘩を続けるのか、それは全く説明されず物語は進行していきます。泰良の人物描写は「ダークナイト」(2008)のヒース・レジャー演じるジョーカーのようでもあり、また、現代社会の片隅で喧嘩に明け暮れる世界観は「ファイトクラブ」(1999)とも通じ合っています。「ファイトクラブ」のブラッド・ピットが演じていた役名は、タイラー＝泰良。粋なオマージュだと思います。

柳楽優弥、菅田将暉、小松菜奈といった、いまいちばん勢いのある俳優たちが、他では絶対に見ることのない表情を露わにしています。そしてどこまでも男臭い世界観。東京では単館系での公開ながら大ヒットとなっています。個人制作の頃から、熱い注目を浴びていた真利子監督の商業映画デビュー作です。普通の日本映画に飽きてしまった、見るものがないと思っている方はぜひYCAMシネマにご来場ください。

杉原永純(YCAMシネマ担当)

2016年9月10日(土)、11日(日)、  
16日(金)~19日(月・祝)

※上映開始時間はお問い合わせください。  
会場:山口情報芸術センター スタジオC  
[料金]一般 1,300円  
any会員・特別割引・25歳以下 800円



©2016「ディストラクション・ベイビーズ」製作委員会

### 「ディストラクション・ベイビーズ」作品紹介

愛媛県松山市の小さな港町に弟とふたりで暮らす芦原泰良(柳楽優弥)。日々喧嘩に明け暮れていた泰良は、強そうな相手を見つけては喧嘩を仕掛け、打ちのめされても食い下がるという無謀な喧嘩を繰り返していた。野獣のように生きる泰良に興味を持った北原裕也(菅田将暉)は泰良に声をかけ、ふたりの危険な遊びが始まる。

## My Favorite

土日のお昼時、YCAMのレストランスペース「YAMA KITCHEN」をのぞくと、みなさんの楽しそうな笑い声があふれています。シェアキッチンを利用する人、食事をする人、お友達とおしゃべりを楽しむ人…。そんな人たちに交じって、自分でドリップしたコーヒーを飲みながら、ほっと一息つくのが至福の時間です。

山田寛之(山口情報芸術センター 職員)



山田寛之

## いらっしませ



### チキンカレー

1,080円  
※アイスコーヒー 432円

### 時間を忘れ、一日ゆったりと過ごせます。

50年前に洋裁学校として建てられたレトロな外観と内装を素敵に改装したお店「Please」。1階のカフェスペース「CHEERS!」で暑い夏には無性に食べたくなるチキンカレーをいただきました。野菜やチキンの旨味がしみ出した優しい味の、じんわりと辛いカレースープは、さらっとして食べやすくターメリックライスとあう! チキンはやわらかくて美味しい。また添えられた彩りの美しい野菜たちのなんと新鮮なこと!! 野菜は季節ごとに旬なものに変わるのだから。いままで味わったことのない絶品カレーに大満足でした。2階には雑貨や洋服がずらり。建物全体が広々とした居心地のいい空間で、食事に買い物、友との語りや一人の時間…。一日をゆったりと過ごせますよ。

CHEERS!(PLEASE1階)  
山口市道場門前2丁目6-15 TEL.083-921-7240  
営業期間:11:00~19:00(ラストオーダー18:30)  
店休日:水曜日 www.the-please.jp

## GOOD GOODS

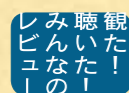


### 中原中也記念館オリジナル キャンバストートバッグ

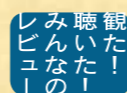
### 読書する「中也くん」の可愛さにドキドキ

中原中也記念館のグッズに、新しいデザインのトートバッグがお目見え。記念館のオリジナルキャラクター「中也くん」が読書している可愛いデザインが目が奪われます。しかも荷物がたくさん入る大容量サイズなので、お出かけにとっても便利。色はナチュラル・ネイビーの2色からお選びください。中原中也記念館の受付で購入、またはオンラインでの注文も可能です。たくさんの本を詰め込んで、中也くんと一緒に出かけ&読書を楽しんではいかがでしょう。

価格:各1,500円(税込)  
サイズ:約横39×高さ35×幅10cm  
容量:約13リットル  
色:ナチュラル、ネイビー



●WHILLに乗って自分が演出の一部になる感覚は今まで体験したことのないものでした。加速して風を切る感じ、音、映像のマッチングが特に印象的。(20代女性 「border」より)  
●島田歌穂さんの素晴らしい歌唱力に引き込まれました。鍛えられた声楽!! すごいですね!(50代女性 「宝くじおしゃべり音楽館」より)  
●恐竜がだんだん大きくなってかわいかった。(人形劇団クラレテ「11びきのねこころんこ」より)



●ダンスにタッチされたり、香水のにおいがしたりなど、五感に作用させた演出にも感動しました。(20代男性 「border」より)  
●三面怪人ダダがダイストに関係あるとは知りませんでした。(40代男性 「DADA 1916→1923 ツアラそして中也」より)  
●「あ〜あ〜あ〜、どうしよう」が気に入りました。いっぱい笑いました。(10代未満男性 オペラ公演「ロはロボットの口」より)  
●大きいジャブをどう動かしているのかが不思議でした。(10代女性 人形劇団クラレテ「11びきのねこころんこ」より)

### 7 July

### 8 August

### 9 September

※掲載内容は2016年6月1日現在のものです。変更場合がありますので、ご了承ください。

#### 山口情報芸術センター (YCAM)

http://www.ycam.jp/

##### ■シネマ

毎週金曜の夜に【全曜夜のYCAMシネクラブ】、日曜に【YCAM名画座】を開催しています(※休映日あり。詳細は、YCAMポータルサイトまたは「YCAMシネマプログラム」をご覧ください。)

**開催中**

📖 コロガルガーデン—子どもたちが創造するメディア公園  
※7/10、8/14子どもあそびばミーティングあり

📺 2 3 「あやつり糸の世界」

📺 8 9 「ファブリックの女王」

📺 15 18 「FAKE」[「牡蠣工場」]

📺 23 24 「いしぶみ」ほか

📺 29 30 「今 伝えたいこと(仮)」

📺 9 YCAMバイオ・リサーチ・オープンデイ「発酵とDIY」

📺 22 YAMA KITCHEN ワークショップ「自分でつくる麺」

📺 30 Unlimited tone New Album「& Life」発売記念ライブ(本誌P9参照)

📺 4 7 真夏の夜の星空上映会(本誌P8参照)

📺 12 14 YCAM爆音映画祭2016(本誌P8参照)

📺 25 28 優秀映画鑑賞推進事業「時代を彩るアイドルたち」

📺 10 11 「ディストラクション・ベイビーズ」ほか(本誌P13参照)

📺 16 19 「さざなみ」

#### 山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

🎵 31 スペイン国立管弦楽団 山口公演 (本誌P11参照)

#### 中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

**開催中**

📺 第13回テーマ展示「中也の本棚—外国文学篇」

📺 24 企画展I「DADA 1916→1923 ツアラそして中也」

📺 28 特別企画展「太宰治と中原中也」(本誌P2~7参照)  
※7/30、8/11、9/24プロムナード・トークあり  
※8/27、9/22関連企画あり(本誌P12参照)

📺 22 中原中也を読む会

📺 26 中原中也を読む会

📺 23 中原中也を読む会

📺 28 企画展II「中也、この一篇—「サーカス」」

📺 28 公開講演「太宰治と中原中也」  
会場：セントコア山口(本誌P10参照)

📺 28 ~2017/2/12

📺 28 ~2017/4/16

[マーク説明] 📺 体験する 🗨️ 参加する 🎧 聴く 👁️ 観る

## INFORMATION

### ■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

#### 予約方法

**インターネット** 山口市文化振興財団ホームページ (要事前登録・24時間受付)

<http://www.ycfcp.or.jp/>

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



#### 電話

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

**TEL. 083-920-6111**

#### 窓口

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

#### 山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

#### 支払方法

**クレジットカード** インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

#### セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

#### 窓口

※上記予約方法「窓口」参照

### ■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

#### 公演開催時

[対象] 0才(6ヶ月)以上

[料金] 1人につき500円、

2人目以降は1人につき300円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

#### 山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分150円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで (山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

### any 会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人

**山口市文化振興財団**

Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内)  
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216

http://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

#### 編集後記

4月から気分を一新し、何か新しいことを始めようと思っていたけど、結局何もせず今に至る。せめて季節を感じることを何か…、そうだ、昨年はまったく見に行けなかった花火大会に今年は行くぞ!! ひゅ〜っどどん!! [M.D]

最近、バッティングセンターに通っています。同僚に打撃コーチになってもらい、アドバイスどおりバットを振ると…。見違えるほど上達! 白球と一緒にジメジメした気分も遠くに飛んでいけ〜! [T.I]

#### A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21  
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431  
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]  
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]  
[休館日] 月曜(祝日の場合は翌日)、毎月末最終火曜(変更あり)、年末年始  
http://www.chuyakan.jp/ chuyakan@c-able.ne.jp

#### B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中園町7-7  
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216  
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)  
[休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始  
http://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

#### C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1  
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488  
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始  
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ shiminkk@c-able.ne.jp

**検定 中**

A. 2 「青い花」  
(中也は詩「港市の秋」と「渡じき黄鶯」を、太宰は小説「ロマネスク」を寄稿しています。残念ながら1号で終刊となってしまいました。)

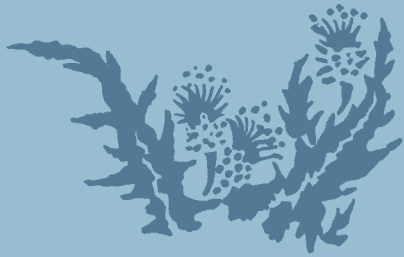
観覧 聴き 読み 楽しむ ひと!

◎体験後に鑑賞もできたのがとても良かったです。主観、客観の両方で楽しめました。(20代女性 [border]より)  
◎中也がDADAに夢中になった年齢の頃、私もまたダダ的なものにとっても興味があったことを思い出した。(40代女性 「DADA 1916→1923 ツアラそして中也」より)  
◎高校時代、小原孝さんの「弾き語りフォーユー」を聴いてました!生で視聴できて感無量です。(20代女性 「宝くじおしゃべり音楽館」より)  
◎6才の娘が、テトが動けなくなった場面で泣いていました。(オペラ公演「口はロボットの口」より)



# 斜陽

太宰治



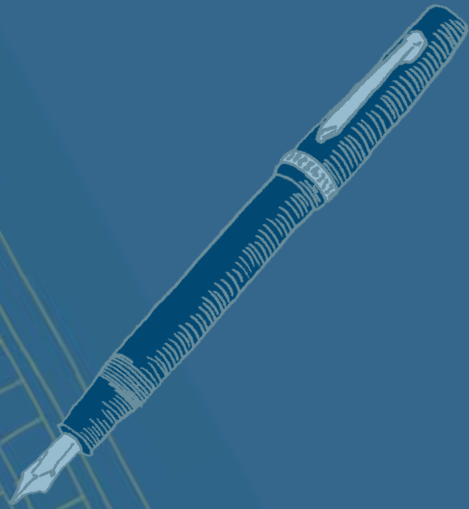
新潮社版

# 太宰

## 人間失格

附  
グッド・バイ 太宰治

公益財団法人  
山口市文化振興財団  
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion



# 女生徒

太宰治

